

## 平成30年度 右京区地域保健推進協議会 会議録

平成30年10月30日(火)

午後2時～午後3時40分

右京区役所5階大会議室1

### 1 出席者 (敬称略)

#### <委員>

一般社団法人右京医師会会長：高島 啓文  
京都市右京歯科医師会会長：吉川 栄博  
右京薬剤師会会長：野村 真洋  
公益社団法人京都府助産師会担当責任者：西川 和美  
公益社団法人京都府看護協会右京地区代表：北川 裕美  
右京区民生児童委員会会計：今井 義弘  
右京区社会福祉協議会副会長：菊池 初江  
右京区地域女性連合会会計：坂田 美佐子  
三菱自動車工業(株)京都製作所管理部長：山口 利之  
一般社団法人右京医師会幹事：齊藤 憲治  
京都光華女子大学：諏澤 宏恵  
右京献血推進実行委員会委員長：渡辺 全夫  
右京区すこやかクラブ連合会会長：齋藤 長景  
右京区自治会連合会副会長：折居 弘一  
右京保健協議会連合会会長：三上 雅司  
市民公募委員：竹下 英二  
市民公募委員：玉田 由美子  
市民公募委員：松藤 悦子

#### <事務局>

右京区長：西田 哲郎  
右京区役所保健福祉センター長：峯 泰勝  
同 子どもはぐくみ室長：笠井 八千代  
同 健康長寿推進課長：角 真紀  
同 健康長寿推進課担当課長：牧 広美  
同 障害保健福祉課長：高見 雄  
同 子どもはぐくみ課長：藤内 令子  
保健福祉局健康長寿企画課担当課長：松村 貴代  
保健福祉局医療衛生センター感染症対策担当課長：井上 ひろみ

右京医療衛生コーナー担当係長：山脇 智代

右京区役所保健福祉センター健康長寿推進課地域支援担当係長：森 典子  
同 健康長寿推進課地域支援担当：見原 和雄

## 2 開催挨拶

西田右京区長

## 3 議事

### (1) 右京区地域保健推進協議会の役員の選出について

- ・事務局より役員任期について説明後、  
会長には、右京医師会会長の高島委員、  
副会長には、右京保健協議会連合会会長の三上委員が、出席委員全員の  
了承により選出された。

(以下の議事については、高島会長により進行)

### (2) 京都市保健所運営協議会の協議内容の報告について

- ・京都市保健所運営協議会の構成について
- ・京都市保健所運営方針について

### (3) 平成29年度右京保健センターの事業統計報告について

### (4) 平成30年度右京の地域保健等の取組について

(上記について事務局から資料説明のうえ、質疑応答等)

渡辺委員：感染症に関して色々な統計が出ていたが、この中には死亡している方、複数回受診している方、毎年受診している方もカウントしているために増えているのではないかと。せっかく調査をするなら、本当に社会の中で増えているのか、減っているのかを調査しないと統計にならないのではないかと。

井上課長：感染症について、病気により報告方法が異なっている。

梅毒については性別と年齢しかわからない。その年に新たに感染した人を計上している。個人特定をし、その方の調査をするということはない。中には何度も受診されている方がおられるかもしれないが、基本的には、新たに診断された人を計上している。

腸管出血性大腸菌感染症O157の場合は個人特定できるので、聞き取り、接触者に検便をさせてもらう等、これ以上広がらないように対策をしている。

渡辺委員：その方がきちんと治療されたかということも含めて調査をしないと、単年度で新たに発症した方ということが言えない。

井上課長：なかなか個人特定のできない病気ではある。普及啓発等を頑張り、少しでも新たに罹る方が減るように努力してまいりたい。

松藤委員：これは民泊ではないかという件があった。連日のようにバスが停まっており、おかしいと思っていたが、調査が入ったようで、なくなった。しかし、同じ建物で、土日に段ボールのようなものが沢山ごみ箱においてある。まだ民泊があるのではないか。窓口として、こちらへ通報したら動いてもらえるのか。

井上課長：医療衛生センターの民泊の担当ではないが、代理で返答させていただく。民泊通報窓口というものがある。電話番号は223-0700。10時～17時の受付。どのような対応ができるかまでは、この場では答えられないが、専門の相談窓口にお問合せいただきたい。

竹下委員：関東で風疹が流行っている。妊産婦さんに影響を及ぼすので、予防接種をしているが、関西、京都での今の状況はどうか。

井上課長：風疹については今年度非常に流行している。関東地方を中心に流行。1月1日から10月17日までの報告数で平成29年の約1.4倍になっている。1月1日からの累積で全国1,289件。29年は1年間で93件であった。京都市については、28年、29年ともに0件であったが、今年1月1日から本日までで9件出ている。いずれも大人の方ばかり。妊婦さんへの感染を心配されているかと思われるが、現時点で、先天性風疹症候群が出たということは医療衛生センターでは関知していない。

京都市ではホームページの中で、風疹の注意喚起を行うとともに、大人の方、特に30代後半以降から50代位の男性の方が、一番免疫が低いと言われているので、妊産婦さんの配偶者の方等を中心に、抗体検査や、風疹の任意接種を進めているところである。

竹下委員：昨年度、結核の集団発生が出たということだが、初動活動はどこがするのか。今までなら、保健センターが動いて、接触者検診や定期外検診をしていたが、今は本庁で対応するのか。

井上課長：結核の対策については、まず医療衛生センターで医療機関からの結核の発生届を受け、その内容を精査し、医療機関から聞き取りを行う。それを各区の医療衛生コーナーの方に送り、直ちに医療衛生コーナーが調査にいかせてもらう。その内容を医療衛生センターに持ち帰り、医療衛生コーナー、医療衛生センター、医師も含めて一緒に協議をし、接触者検診の範囲を決めている。初動は基本的に医療衛生コーナーが実施している。

竹下委員：夏ごろの京都新聞に、がん検診の受診率が少ないと挙がっていたが、資料中の実績報告で、肺がん検診28年度、4,685名。29年度、4,065名。他の胃がん検診や、乳がん検診は確かに原因があって減少しているのはわかるが、肺がん検診は600人以上減少していることに対しどういう考えをもっているのか、どういう対策を考えているのか、教えてほしい。

牧課長：昨年度肺がん検診受診者数は600人減少しているが、集団健診の肺がん検診は、増えている。区役所で行っている肺がん検診は、減少している。それについては、胃がん検診を受けるときに、肺がん検診も併せて受けられるからと考えられる。最近区役所の職員が地域に出向き、色々な健康教室等をする機会が増えている。あらゆる機会を通じて、がん検診を受けることの必要性を普及啓発していきたいと思っている。

高島委員：意見を言う立場ではないが、風疹の配偶者の任意接種の件は、助成金が出て、援助がある。多分あまり周知がされていないと思う。周知が必要。任意接種が何歳まで可能なのか、結構あいまいなので、明確な基準を出していただきたい。

何年か前に子どものはしかが流行ったときにワクチンが枯渇するということがあった。ワクチン接種依頼をするなら、ワクチンの確保が必要。そうでないと子どもの定期接種すら不足する事態になりかねない。

肺がん検診は有効性が厳しいところがある。おそらく、乳がん検診や、胃がん検診が減っていることの問題の方が大きいのではないかと個人的には思っている。特定機能検診等、健康な方が検診に来られるということが全体に減っている気がする。京都市全体としての問題。受診者数全体が減っているのが、非常に心配である。

#### 4 閉会挨拶 峯右京保健福祉センター長